

# 身近な原料を使った 肥料の利用拡大に向けて

沖縄総合事務局消費・安全課では肥料生産事業者を訪問し、肥料の生産・流通状況の聞き取り、意見交換を行っております。

農作物の栽培に利用される肥料には、様々なものがありますが、化学合成肥料の主な原料のほとんどは、海外に依存しているといわれています。このことから、国内で調達できる未利用資源を有効活用する動きが広がっており、特に身近な原料として、浄水化工程で発生する汚泥が注目されています。

今回、汚泥を主な原料とした肥料を生産している沖縄県農業協同組合北部堆肥センターの伊波工場長と当センターで製造した肥料を使用して花き（菊）を栽培している野原氏に話を伺いましたのでご紹介いたします。

## 北部堆肥センターについて

北部堆肥センター伊波工場長によると「北部堆肥センターは平成25、27年度にかけて名護市の沖縄振興特別推進市町村交付金を利用して整備され、平成28年度から沖縄県農業協同組合が指定管理者となり、運営しています。

主に汚泥と鶏糞、木質チップを原料とする汚泥肥料と鶏糞や豚糞を主な原料とする特殊肥料（堆肥）を生

産しています。

汚泥肥料は、浄化センターや食肉処理施設で生じる汚泥約2千トン／年を原料として受け入れ、その他の原料と混合し、発酵処理工程を経て、約2か月で製品化しています。

生産された汚泥肥料は主にウコンや菊、カボチャなどの生産農家に利用いただいています。安価な汚泥肥料はリピーターが多く、口コミで利用農家も広がっており、環境に優しい肥料をご利用いただきたいです」とのことでした。



【下水処理場からの汚泥原料】



【原料となる鶏糞】



【生産された汚泥肥料】

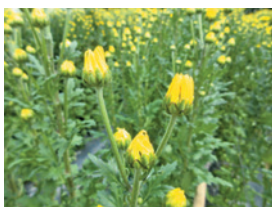
## 実際に汚泥肥料を利用している 菊生産農家の意見

名護市内で花き栽培を営んでいる野原氏に汚泥肥料を利用した感想に

ついて話を伺ったところ「花き生産を始めてから約45年になりますが、汚泥肥料は土壌改良を目的に約4年前から菊の定植前に基肥として利用しています。

汚泥肥料や堆肥は化学肥料に比べて長期にわたって土壌に効果があり、土作りに適していると感じています。

今期は、昨年11月の沖縄本島北部豪雨により、スプレー菊を定植したばかりのほ場約20アールが冠水しましたが、幸い生育への影響は少なく、今年3月の彼岸用として、出荷しました」とのことでした。



【スプレー菊】



【彼岸向け菊収穫作業中の野原氏】

当局では、「汚泥肥料」に対する農業者や消費者のイメージ改善、未利用資源の地域への循環のPRなど、引き続き理解の促進に向けて情報の発信を行ってまいります。

お問合せ先

農林水産部 消費・安全課

☎098-866-1672